

克仁会 介護職員初任者研修養成講座

科目別シラバス

科目1. 職務の理解(6 時間)

目標(ねらい)

研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持ち、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

指導の視点

- ①研修課程全体の構成と各研修科目相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。
- ②視聴覚教材等を使用し、介護職が働く現場や仕事の内容を、できるかぎり具体的に理解させる。

科目2. 介護における尊厳の保持・自立支援(9 時間)

目標(ねらい)

介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するに当たっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

指導の視点

- ①具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。
- ②具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。
- ③利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。
- ④虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。

科目3. 介護の基本(6 時間)

目標(ねらい)

- ①介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
- ②介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

指導の視点

- ①可能なかぎり具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。
- ②介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人で対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。

科目4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(9 時間)

目標(ねらい)

介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。

指導の視点

- ①介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。
- ②利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置付けや代表的なサービスの理解を促す。

科目5. 介護におけるコミュニケーション技術(6 時間)

目標(ねらい)

高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取るべきことが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき行動を理解している。

指導の視点

- ①利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。
- ②チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。

科目6. 老化の理解(6 時間)

目標(ねらい)

加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、整理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

指導の視点

高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。

科目7. 認知症の理解(6 時間)

目標(ねらい)

介護において認知症を理解する事の必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

指導の視点

- ①認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。
- ②複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。

科目8. 障害の理解(3 時間)

目標(ねらい)

障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。

指導の視点

- ①介護における障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。
- ②高齢者の介護との違いを念頭に置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。

科目9. こころとからだのしくみと生活支援技術(75 時間)

目標(ねらい)

- ①介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部又は全介助等の介護が実施できる。
- ②尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。

指導の視点

- ①介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。
- ②サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。
- ③例えば、「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。
- ④「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。

修了時の評価

- ①主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ②要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ③利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ④人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ⑤人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ⑥家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ⑦装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行う事ができる。
- ⑧体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機能や様々な車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑨食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑩入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑪排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑫睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ⑬ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について列挙できる。

科目10. 振り返り(4 時間)

目標(ねらい)

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る。

指導の視点

- ①在宅・施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ・言葉遣い・対応の態度等の礼節を含む。)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。
- ②研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させた上で、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。
- ③修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。
- ④最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。
- ⑤介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。